

# 免疫介在性ニューロパチーの新たな診断ツール確立のための研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

**研究期間：2023年 10月 4日 ～ 2028年 3月 31日**

**〔研究課題〕** 免疫介在性ニューロパチーにおける新たな診断ツールの確立

**〔研究目的〕** ギラン・バレー症候群、慢性炎症性脱髄性多発根ニューロパチー、多巣性運動ニューロパチー、血管炎・膠原病に関連した炎症性ニューロパチーなどの免疫介在性ニューロパチーの診断には従来、神経伝導検査や神経生検が用いられています。一方でこれら検査のみでは診断が難しい患者さんが少なからずいらっしゃいます。そのような患者さんにおいて神経筋の形態変化を調べる超音波検査や末梢神経を広範囲に検索できる体性感覚誘発電位が診断に役立ったという報告が相次いでいます。しかしこれらの新しい検査は発達段階です。本研究では免疫介在性ニューロパチー患者さんの診断において新たな診断ツールである神経筋超音波や体性感覚誘発電位がどのように役立つかを明らかにします。

**〔研究意義〕** 従来の検査で診断が困難であった免疫介在性ニューロパチー患者さんを診断に導けるようになり治療の機会を増やすことができます。

**〔対象・研究方法〕** 当科で免疫介在性ニューロパチー（ギラン・バレー症候群、慢性炎症性脱髄性多発根ニューロパチー、多巣性運動ニューロパチー、血管炎・膠原病に関連した炎症性ニューロパチーなど）と診断された患者さん（1996年4月から倫理委員会承認日前まで、また倫理委員会承認日以降に診断された方も含みます）を対象に、診療の中で行われた従来検査である神経伝導検査、神経生検、新たな検査である神経筋超音波、体性感覚誘発電位が行われた患者さんのデータを収集し、検査の異常頻度や特徴を明らかにします。

**〔研究機関名〕** 帝京大学医学部附属病院脳神経内科学講座、責任者 北國圭一（脳神経内科講師）

**〔個人情報の取り扱い〕** 収集したデータは、個人毎に加工されたデータとしてデータ管理責任者が常時施錠される医局内のコンピュータのハードディスクに責任をもって保管し、パスワードを設定して研究責任者及びデータ管理責任者以外がアクセスできない体制とします。研究終了後には研究責任者が保管の対象となる記録類一式をDVD-Rに記録し、封かん用封筒に詰め、帝京大学臨床研究センター（以下、「TARC」）事務局に提出します。TARCによる保管期間は研究終了から10年であり、研究責任者から延長の申し出がない場合は、TARCにより適切に破棄されます。また学会論文等での公表は集計結果のみであり、個々人の情報は提示しません。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願ひ申し上げます。

## 問 い 合 わ せ 先

研究責任者：帝京大学医学部脳神経内科学講座・講師 北國圭一

研究分担者：帝京大学医学部脳神経内科学講座・准教授 畑中裕己

住所：東京都板橋区加賀 2-11-1 帝京大学医学部附属病院神経内科（代表 03-3964-1211）〔内線 7350〕